

③ 本時のねらい

本時のねらいを具体的にあげてみると次のようになる。

ダンスについて

ア、5～6人のグループで、話しの「すじ」に従って模倣できるようにする。

イ、リズムに合わせて、自由に楽しく、のびのびと表現できるようにする。

前まわりについて

ウ、なめらかに前まわりができるようにする。

— A程度

エ、まっすぐにころがり、ひざを持って起きることができるようにする。

— B程度

オ、傾斜を使って、前まわりができるようにする。

— C程度

④ 程度別集団編成の基準

第2次

A（紫組） — 活発……まがらないでまわり、ひざを持って起きることができる。

B（赤組） — 普通……一応まわられるが、手をつかないと起きられない。

C（ピンク組） — 不活発……ひどく曲ったり、なかなかまわれない。

A（紫組）……なめらかに前まわりができる。

B（赤組）……まっすぐにころがり起きることができる。

C（ピンク組）…傾斜を使って前まわりができる。

⑤ 児童の実態

1・2・3組合併で96名、男50名、女46名である。身体活動への意欲は盛んで、ほとんどの児童は、体育の時間を好んでいる。男女の意識はみられず、仲よく運動することができる。第2次取り扱いの「前まわり」運動では、Aのグループが35名、Bのグループは34名、Cのグループは26名である。できる、できないというよりも向上への意欲をもたせるため、紫、赤、ピンクのリボンをつけさせる。児童は喜んで学習に参加し、家庭においても、ふとんの上などで練習している。

⑥ 準備

マット（12枚）、レコードプレーヤー、ピアノ、タンブリン、種別リボン、リーダーのカンムリ

⑦ 場の構成

第3・4次

